

# 中学2年3組 社会科学習指導案

指導者 岡田 昭彦

## 1 単元名 身近な地域の課題を見つけよう ～社会的な見方・考え方を使って～

### 2 単元のねらい

- ・直接経験地域の地理的事象を学習対象として、観察や調査などの活動を通して、身近な地域に対する理解と関心を深める。
- ・市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法を身に付ける。

### 3 授業の構想

(1) 生徒は、H28年度夏休みの宿題として、フィールドワークを行い「身近な地域の課題」を発見している。生徒の找けた代表的な松江市の課題は以下のようなものである。

- 氏神神社の氏子が減っている。観光地になってない神社なので維持が難しくなっている。
- 自動販売機が地域にある。しかし道幅が狭い箇所に設置してあり、ジュースを買う人があると、道幅は1mを切り、交通事故が起こりそうな箇所が数カ所ある。
- 市街地の商店街に活気がない。一方、郊外にスーパー等があり、人や自動車が多く、活性化している。
- 人口減少の結果、空き屋が増えている。しかし、駅が近いため地価は高いので、商業用地として売れ、人口増加につながらない。

さらには、「身近な地域の調査」の夏休みの課題を終えて、次のような振り返りをしている。

- 今まで氏子神社は、知っていたが、あまり興味はなかった。今回の観光客を調べてみて、神社ですら経営が難しいという事実があることがわかった。興味をもちたい。
- 自動販売機は、必要だ。しかし、市内では安全が確保できない箇所もある。私では解決できない問題を、どうすればよいのか。
- 郊外ばかりが発達すると、高齢者とか買い物に行けない。商店街復活のきっかけになるようなことはできないのか考えたが名案が浮かばない。
- このまま空き屋が増えてくると防犯上も問題だし、町に活気がなくなり、人口減少のため、自治的活動ができなくなる。

このように夏休みの宿題として行う身近な地域の調査は、自分の興味・関心、趣味などからテーマを設定することが多い。さらに、フィールドワークをしているため、課題を自分のこととして捉え、解決する意欲が高くなる。そこで、一人一人の課題を本校の総合的

な学習の時間「住みたいまちプロジェクト～ふるさとの未来をつくろう～」で活用している6領域（環境・生活・観光・教育・福祉・ものづくり）に分類する。そして、自分の領域の見方で他の領域の地域的課題を見直し、今まで違った領域で関係ない課題と思っていたことが、案外、解決の糸口につながる考え方を身につけたい。結局、どのような街を創りたいかにより、地域の本質的な課題や課題の優位性は違ってくるので、理想のまちを掲げ、創造する姿を期待したい。

(2) 本単元では、問題解決能力（社会科部では、「社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決をする力」）を育成するために、社会的な見方や考え方をを使って、地域の課題に対する自分の関わり方を追究する姿を大切にしている。自分の課題の領域だけでは解決が難しいことを、他者の違った領域で見つめ直し、今まで考えなかった他領域に自分の課題の解決の糸口があることに気付きたい。そして、3年生で実施される総合的な学習の時間「理想のまちづくり」につなげ、社会貢献を実際に行う時に使う社会的見方・考え方を広げ深めていく。学習指導要領によると「地域の課題を見いだし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養う」としている。さらに直接体験地域の調査において次のように行うこととしている。

- 自分たちの観察や調査の活動を通じて資料をつくり、それをもとに地域の課題を見いだし、考察する。
- 生活に関わる地域の課題を見いだし、その要因を分析したり問題の所在や将来像を提案したりするなど、互いにその課題について意見交換をはかる。

#### 4 展開計画

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇願う子どもの姿
1		○夏休みの課題の発見 ・自分のテーマに合ったフィールドワークをして、自作の地図を根拠にして身近な地域の課題を見つけよう。	◇自分の興味・関心、趣味を生かして意欲的にフィールドワークする姿。
2	1	○課題の表現 ・自分がフィールドワークで見出した「身近な地域の課題」を、3分間のプレゼンができるようにプレゼン資料を作り、発表する。課題のない生徒も、ここで課題を作成する。	◇相手に主旨が伝わるようなプレゼンを作る姿。
	2	○自分の課題が松江市の課題になることの証明 ・課題の位置的・時間的な広がりや文献、統計・資料から調べて、松江市の課題でもあることを明らかにする。 ・地形図、主題図を読み取る技術を学び、自ら見いだした課題が松江市の課題であることを明らかにする。	◇自分の見いだした課題に対して、現状を把握しようとする姿。
	3	○課題の把握 ・自分がフィールドワークで見出した「身近な地域の課題」に対して、どのような解決策が行われ、どのような効果があったか調べる。その上で、現実に松江市の課題として残っているのか経験知、文献やHPなどで検討する。	◇資料や統計、地図を裏付けされた自分の考えをもととする姿。
	4	○課題の解決 ・グループの中で、「住みたいまち」とは、どのような街なのか。	◇「住みたいまち」を創るために、自分の根拠を発表し、グループ

	自分の課題の解決策を意識しながら1つ考える。グループで「住みたいまち」を決める。	で「住みたいまち」を考えようとする姿。
⑤	○課題の具体的解決 ・グループの中で、「住みたいまち」を創るために、自分の課題と他者の課題を合わせて、効果的な解決策がないか協働的に模索する。	◇自分の課題の根拠を他者に説明し、他者の課題の根拠を聞き、効果的な解決策を導き出そうとするする姿。
6	○ふりかえり	◇一連の学習活動をポートフォリオにして、冊子にして記録する姿。
7	・「住みたいまち」を創るために、どのような社会（例：市役所、島根大学・・・）と関わり合えば実現できるか考える。相手を説得できるプレゼン（統計・資料を活用）を作り、学習内容をふりかえる。	

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

「住みたいまち」を創るために、自分の課題と他者の課題を合わせることにより、今までと違った見方を使って、解決策を考え、話し合いができる。そして、他者に課題の本質や解決策の有効性を地図や統計・資料を使いプレゼンできる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
主発問：「住みたいまち」の課題解決で、今までにない社会的な見方を使おう。	
<p>1. 「住みたいまち」と自分の課題の確認</p> <p>・「住みたいまち」は、各自、ポートフォリオの表紙に記載し、課題のプレゼンとポートフォリオを机上の置く。</p> <p>2. 身近な地域の課題の解決をする。</p> <p>・グループの中で、自分の課題と他者の課題を合わせて、今までと違った社会的な見方を使い解決方法を協働で考える。</p> <p>3. 解決策を発表する。</p> <p>・「住みたいまち」づくりに、どのように関わることができるのか地図、統計・資料、インタビューや事例などで根拠を示しながら、わかりやすく発表する。</p> <p>4. 次時の予告</p> <p>・自分の解決策を3年生で実現するために、どの社会（例：市役所、島根大学・・・）に関わってもらおうか考え、説得できる根拠なのか検討する。</p>	<p>・ミニホワイトボードに、プレゼンの手順のような進行表を書く。</p> <p>・グループ内で、違う課題であっても、今までと違った見方を使うことで解決へつなげるよう声がける。</p> <p>・「例えば・・・」「地図を比較すると・・・」と今まで調べた課題となる根拠を説明するよう指示する。</p> <p>・学級全体に根拠と解決策がわかりやすように、解決策をミニホワイトボードへ、補助資料を実物投影機などで提示し、プレゼンするように声がける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（思考・判断・表現）</p> <p>「住みたいまち」の課題解決について、協働の中で、これまでの自分と違った社会的な見方を使って考えている。【評価方法 ノート 発言】</p> </div>